

自転車国内販売動向調査月報ダイジェスト(平成24年5月)

当協会では、毎月全国100の標準自転車小売店を対象に、自転車の販売に関するアンケート調査を実施し、「自転車販売動向調査月報」としてとりまとめ発表しております。

平成24年5月の調査がまとまりましたのでその概況をお知らせします。なお詳しくは月報をご参照ください。

◎調査店1店当たりの販売台数

平成24年5月の1店当たりの新車販売台数は前月比56.9%の17.8台となり、前年同月比では0.1台減の99.4%となった。車種別でみると前月比は全車種下回っており、前年同月比では上回ったのがホーム車104.5%、子供車106.3%、幼児車114.3%、電動アシスト車107.1%で、横ばいが折りたたみ車、下回ったのがシティ車94.4%、スポーツ車82.1%である。

◎自店や他店の動向など調査店から寄せられたコメント

各店舗から寄せられるコメントは、「ゴールデンウィークの影響か、5月の売上げは毎年イマイチ。梅雨に入る前に少しでもがんばりたい」(千葉)、「毎年5月の販売台数は落ちるがそれにしても今年はひどい…。6月のボーナスに期待をしよう」(岡山)など、低調を示すコメントが多かった。さらに「大型店の出店ラッシュ、すきま商売はむずかしい。新車は売れず、チラシを入れても効果はなかった。たまに来る修理のみの1ヵ月だった」(宮城)、「流通系、大型専門店、ホームセンターの進出で専門店に余波が押し寄せて来ている。とにかく地域に密着してがんばるしかない」(茨城)、「県内に大型サイクルショップが2店出店するという話を聞いた。市内ではないので当店には大きな影響はないと思うが、近隣の同業者の気持ちを考えるとやりきれない!!」(山口)など、大型店進出に苦慮するコメントが目立った。

また「毎年恒例の高等学校の通学自転車の安全点検が行われた。約200台ほどあったがほとんどホームセンターで購入されたもので、メーカー車はそのうち数台しかなかった。通学用自転車が売れない原因を再認識させられた」(山梨)、「近年、通学シーズンとか子供の日、クリスマスとかきても、必要なときに買って修理も必要になってから修理して…。1年中、変化がなくなってきたように感じる」(鹿児島)など、春需が今までと違う傾向を示すコメントがみられた。

調査店1店当たりの販売台数(総合)

[全国9地域 店舗：100]

(平成24年5月)

[単位：台 構成比：%]

車種別	本 月		前 月		前月比	前年同月		前年同月比
	台数	構成比	台数	構成比		台数	構成比	
シティ車	3.4	17.3	8.2	24.3	41.5	3.6	17.9	94.4
ホーム車	7.0	35.5	13.1	38.9	53.4	6.7	33.3	104.5
折りたたみ車	0.6	3.0	0.9	2.7	66.7	0.6	3.0	100.0
子供車	1.7	8.6	2.8	8.3	60.7	1.6	8.0	106.3
幼児車	0.8	4.1	0.9	2.7	88.9	0.7	3.5	114.3
マウンテンバイク	0.6	3.0	0.9	2.7	66.7	0.7	3.5	85.7
スポーツ車	2.3	11.7	2.9	8.6	79.3	2.8	13.9	82.1
電動アシスト車	1.5	7.6	1.8	5.3	83.3	1.4	7.0	107.1
合 計	17.8	90.4	31.3	92.9	56.9	17.9	89.1	99.4
中古車	1.9	9.6	2.4	7.1	79.2	2.2	10.9	86.4
総合計	19.7	100.0	33.7	100.0	58.5	20.1	100.0	98.0
モーターバイク	0.7	3.6	0.7	2.1	100.0	0.5	2.5	140.0

注：モーターバイクにおける構成比欄の数字は本月販売台数総合計に対する比率である。